

# 宇治山田港湾整備（みなとまちづくり）に向けての提言



I	提言フォローアップの骨子	1
II	みなとまちづくりの目標	2
III	みなとまちづくりの基本的な考え方	3
IV	みなとまちづくりの柱と主な施策	5
V	アクションプログラム(第3期戦略)	25
VI	構想推進に向けて	26

令和2年7月10日

宇治山田港湾整備促進協議会

みなとまちづくり構想 主な経過

提言フォローアップ見直しにあたって

平素は、当協議会の運営に対し、多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 22 年 11 月 1 日に「宇治山田港湾整備（みなとまちづくり）に向けての提言」のフォローアップ<修正版>を作成し、10 年が経過しようとしています。

今般、フォローアップ<修正版>について、今後 10 年間の取り組み目標を定め、「宇治山田港湾整備（みなとまちづくり）に向けての提言」を見直しする次第となりました。

今回の提言につきましては、既に取り組みされている事業の継続及び見直し、「みなと」を核としたまちづくりの促進として「みなとオアシスの登録」、既存の施設・設備の更新、次世代への担い手確保に向けた取り組みなどを進めていきます。

宇治山田港は歴史文化豊かな港であります。当該地域では、地域の資源を活かし、自治会やNPOなどの関係者が連携協力し、かつての船参宮の再現や、伝統行事の復活、環伊勢湾・三河地域との交流、海の体験交流イベントの開催など、宇治山田港を核とするみなとまちづくりに取り組んでいます。

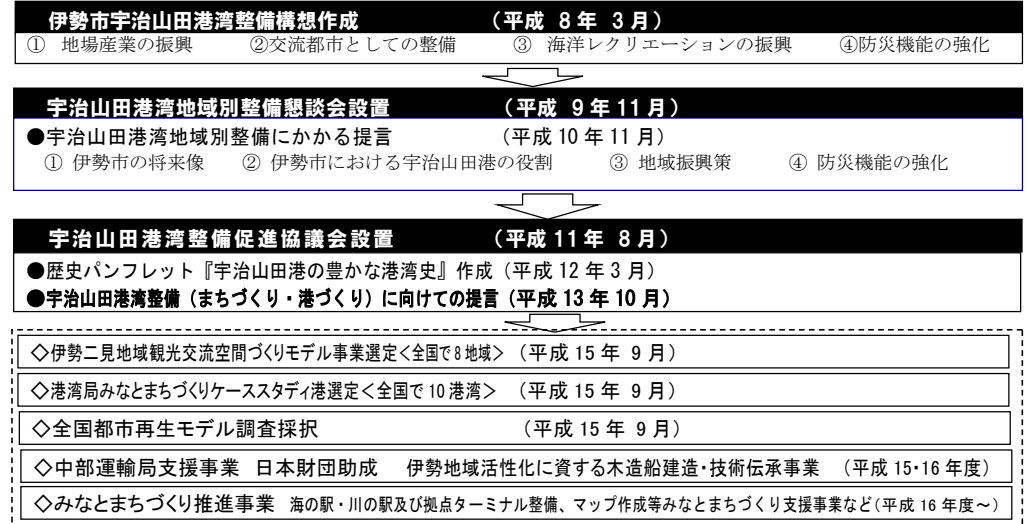
引き続き、地域が主役となり、豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景に「市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり」を目指し取り組んでまいりますので、今後とも、官民一体となつての事業推進を是非お願い申し上げます。

令和 2 年 7 月 1 0 日

宇治山田港湾整備促進協議会

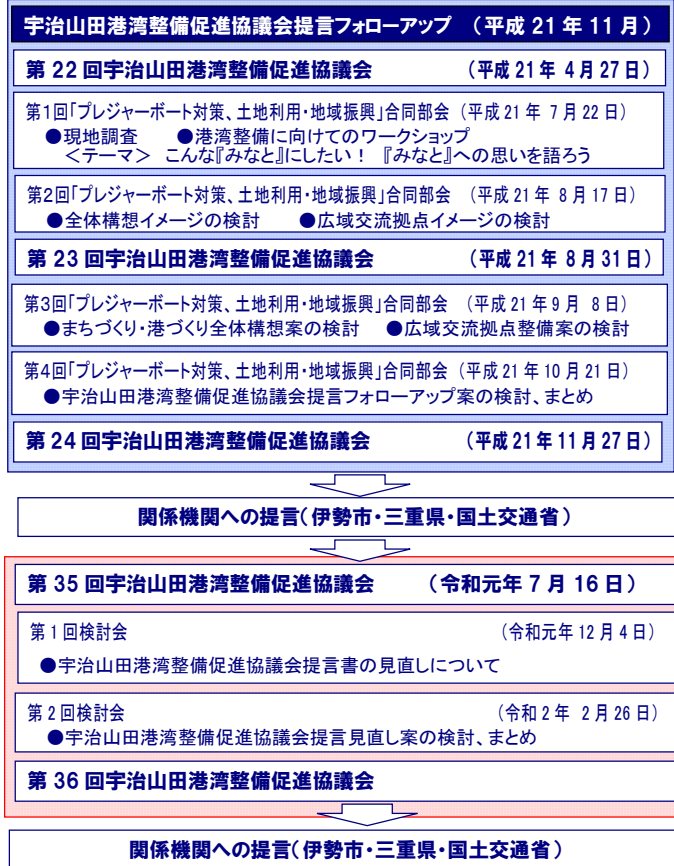
会長 中村 清

これまでの取り組み



構想検討組織

宇治山田港湾整備促進協議会



関係機関への提言(伊勢市・三重県・国土交通省)

提言フォローアップ修正版(平成 22 年 11 月)

第 25 回宇治山田港湾整備促進協議会 (平成 22 年 9 月 3 日)  
 ● 集客と交流活動拠点づくりの検討  
 ● 海の防災活動拠点の検討

第 1 回「プレジャーボート対策、土地利用・地域振興」合同部会 (平成 22 年 10 月 1 日)  
 ● 集客と交流活動拠点づくりの検討

第 2 回「プレジャーボート対策、土地利用・地域振興」合同部会 (平成 22 年 10 月 20 日)  
 ● 提言フォローアップ修正版、まとめ

第 26 回宇治山田港湾整備促進協議会 (平成 22 年 11 月 1 日)

# I 提言フォローアップの骨子

## みなとまちづくりの目標

～新たな広域交流拠点めざして～

豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした

市民や訪れる人々がふれあい、  
あまねく人々を癒すみなとまちづくり



## みなとまちづくりの柱と主な施策

### 1 『まちの宝物』発掘・活用

- 『まちの宝物』発掘・活用

### 2 宇治山田港へのアクセスづくり

- 海上アクセスの整備
- 陸上交通の整備

### 3 集客と交流拠点づくり

- 宇治山田港広域交流拠点づくり
- クルージングネットワークづくり
- 川の魅力づくり
- 海岸の魅力づくり
- 歴史・文化の継承
- 市域内交流拠点・観光資源との連携
- 「みなと」を核としたまちづくりの促進

### 4 地場産業の振興

- 造船業の振興
- 漁業の振興
- 農業の振興
- 新産業の創造

### 5 防災機能の強化

- 海の防災活動拠点整備
- 護岸の整備
- 浚渫事業の促進

### 6 交流の推進

- 交流の推進
- 木造船みずきの一新と乗船体験学習の継続

### 7 マリン・生涯学習の充実

- マリン・生涯学習の充実

### 8 プレジャーボート対策

- 水面利用に関するルールづくり
- 施設整備などの受け皿づくり

## 第3期アクションプログラム

### 重点プロジェクト

#### I プレジャーボート対策の継続

##### 1 プレジャーボート対策

- (1) 水面利用に関するルールづくり
- (2) 施設整備などの受け皿づくり

#### II みなとの活用

##### 1 集客と交流拠点づくり

###### (1) 宇治山田港広域交流拠点づくり

- ① 宇治山田港「海の駅神社」の利活用
- ② 広域交流拠点整備計画の策定

###### (2) クルージングネットワークづくり

- ① 体験イベントの実施
- ② 環伊勢湾・三河湾との交流

###### (3) 川の魅力づくり

- ① 川まちづくりとの連携による魅力づくり

###### (4) 「みなと」を核としたまちづくり

- ① みなとオアシスの登録、新たな担い手確保に向けた取り組み
- ② 地域住民、観光等に資する施設、情報の整備

##### 2 防災機能の強化

- (1) 海の防災活動拠点整備
- (2) 護岸整備
- (3) 浚渫事業の促進

#### III 地域が主役となる「みなとまちづくり」の展開

##### 1 『まちの宝物』発掘・活用

##### 2 交流の推進

##### 3 マリン・生涯学習の充実

## II みなとまちづくりの目標

～新たな広域交流拠点めざして～

豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした

### 市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり

宇治山田港は、五十鈴川、勢田川の河口に位置する地方港湾（昭和27年9月1日指定）で、宮川本川の右岸下流端から夫婦岩までを港湾区域とする河口港です。

かつて、勢田川上流の河崎港、河口附近の神社港、大湊港よりなり、全国各地からお伊勢まいの客を乗せた船や外来の物資を集散するさまざまな船が往来していました。

大湊は、豊臣秀吉が朝鮮出兵に使った日本丸を建造するなど、伝統ある造船のまちとして栄えました。また、南北朝時代には吉野と東国を結ぶ中継港として栄えました。

神社港は、五十鈴川、勢田川に通じる水運の要地で、外来の物資を集散する幾多の船が往来し、これに伴う海運業や船宿を営むものも多く、造船業の発達を見たこともあります。

河崎港は、住民と大勢の参詣者の生活物資を供給する問屋街として発達しました。

また、宇治山田港は、風光明媚な海岸を持ち、「日の出」で全国的に有名な夫婦岩や明治15年日本ではじめて海水浴場が誕生し、海水浴場発祥の地として公認された二見浦海水浴場もあります。

現在、周辺地域への砂利・砂など建設用骨材供給や沿岸漁業の基地としての役割のほか、沿岸地域では、関係者が連携協力し、かつての船参官の再現や伝統行事、海の体験交流イベントの開催など、地域住民によるみなとまちづくりへの取り組みがすすめられています。

宇治山田港は、地域住民を主体とする市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒す新たな広域交流拠点として再生します。



海の駅 神社  
(拠点ターミナル)

#### 歴史・文化



日本丸模型



織田信長朱印状

#### 伝統行事



篠島御幣鯛神宮奉納

#### 市民活動



みなとまち通信

#### 新たな海の玄関口



往時の宇治山田港

海の駅 神社



河崎「川の駅」

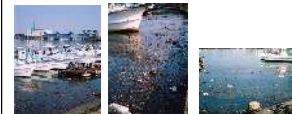


どんどこ丸 みすき  
船参宮の復活

#### 環境対策



勢田川きれいにプロジェクト



放置艇による環境悪化



みなと祭り



体験イベント



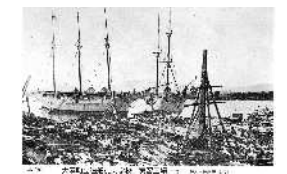
夫婦岩



二見 賀日館



河崎 魚市場付近



大湊町立造船徒弟学校実習工場



二見浦海水浴場



大湊 神宮貯木場



市川造船

# 宇治山田港湾整備 全体構想イメージ（案）

## 宇治山田港（地方港湾）

宇治山田港は、伊勢市南端を流れる五十鈴川・勢田川の河口に位置する地方港湾で、宮川本川の右岸下流端から夫婦岩までを港湾区域とする河口港です。往時は勢田川上流の河崎港、河口附近の神社港、大湊港よりなり、全国各地からのお伊勢まいるの客を乗せた船や、外來の物資を集散するさまざまな船が往来していました。

徳川時代の中期には、大湊、神社港は伊勢内陸の外港として、河崎港は住民と膨大な参宮者の生活消費物資を供給する問屋街として発達。明治に入ると、豊橋・蒲郡方面、神戸・大阪方面との航路が開かれ、さらなる発展を遂げました。

昭和の初めになっても市内に出入りする物資は、その8割が大湊・神社・河崎の3港によるものだったといえます。しかし、その後の陸上交通の急速な発展とともに港勢は徐々に衰え、なかでも内港の河崎港は回船問屋群の姿はとどめているものの、港としての機能は失われました。

現在は、神社・大湊・一色・今一色・二見地区に大別され、神社地区の砂利・砂など建設用骨材取扱量は県下有数の規模を誇ります。大湊地区は歴史をもった造船技術を営々と引き継ぐ中・小型船建造を主に、一色・今一色地区は漁業の基地として、また二見地区は春や秋には観光客、夏は海水浴の人々ににぎわいを見せています。

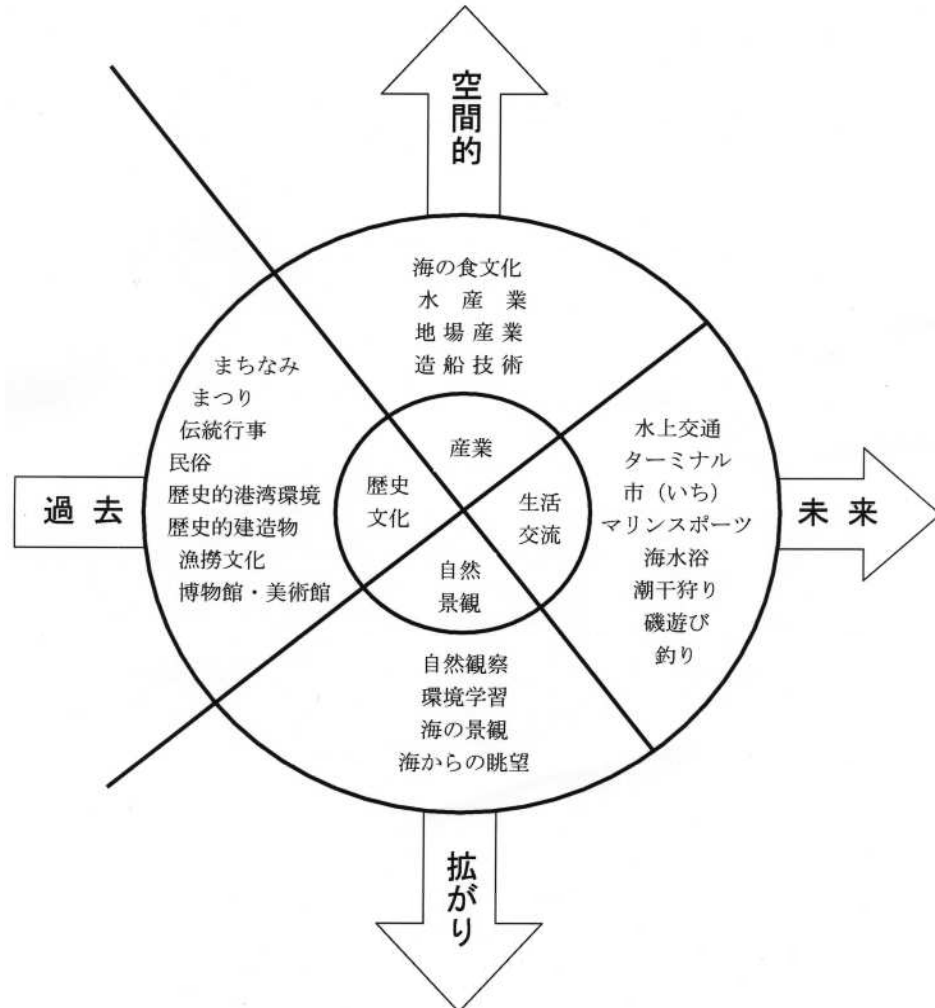


### III みなとまちづくりの基本的な考え方

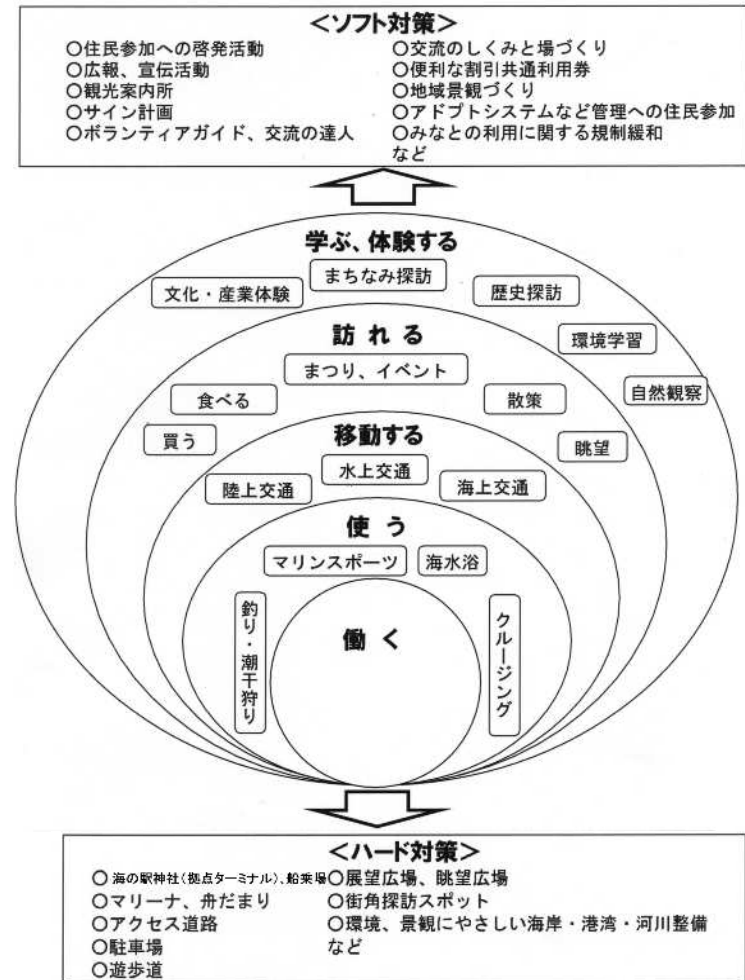
#### 視点

- 1 みなとまちづくりに活用が考えられるテーマや資産
- 2 人とみなとのかかわり
- 3 災害時におけるみなとの活用

#### ア 時間と空間的拡がり



#### イ 人とみなとのかかわり



#### ウ 災害時におけるみなとの活用

生活支援等防災拠点など

# IV みなとまちづくりの柱と主な施策

みなとまちづくりの柱	主 な 施 策	みなとまちづくりの柱	主 な 施 策
1 『まちの宝物』発掘・活用	<b>1) 『まちの宝物』発掘・活用</b> ■歴史・文化、社寺仏閣、伝統行事、まつり、プレジャーボート、造船業、漁業、農業	4 地場産業の振興	<b>1) 造船業の振興</b> ■プレジャーボートのホスピタル機能の付加、FRP 船リサイクルシステムの検討など <b>2) 漁業の振興</b> ■荷捌き場の整備、後継者の育成、観光漁業の充実など <b>3) 農業の振興</b> ■朝市、観光農園・市民農園の整備、花栽培 <b>4) 新産業の創造</b> ■マリーナ、小型船舶等の運航
2 宇治山田港への アクセスづくり	<b>1) 海上アクセスの整備</b> ■伊勢湾・三河湾 ■宇治山田港（勢田川・五十鈴川） <b>2) 陸上交通の整備</b> ■臨港道路の整備 ■交通結節点の整備	5 防災機能の強化	<b>1) 海の防災活動拠点整備</b> ■緊急物資輸送基地の整備 <b>2) 護岸の整備</b> ■港湾・海岸の整備 <b>3) 「みなと」の防災・減災機能の強化</b> ■浚渫事業の促進
3 集客と交流拠点づくり	<b>1) 広域交流拠点づくり</b> ■宇治山田港 広域交流拠点整備構想 <b>2) クルージングネットワークづくり</b> ■交流ネットワークの確立 ■クルージング受入機能の整備 ■クルージング体験イベントの実施 <b>3) 川の魅力づくり</b> ■川の魅力づくり <b>4) 海岸の魅力づくり</b> ■宇治山田港海岸 大湊地区 ■宇治山田港海岸 二見地区 <b>5) 歴史・文化の継承</b> ■宇治山田港の豊かな港湾史の研究 ■資料館の建設 ■まちかど博物館の整備 ■河崎歴史文化交流拠点の整備 ■二見町茶屋地区観光交流拠点の整備 ■歴史・文化のネットワークづくり ■能楽舞台の建設 <b>6) 市内交流拠点・観光資源との連携 歴史・文化の継承</b> ■市内交流拠点・観光資源との連携 <b>7) 「みなと」を核としたまちづくり</b> ■みなとオアシスの登録	6 交流の推進	<b>1) 交流の推進</b> ■地域間交流、地域振興イベント <b>2) 木造船みずきの一新</b> ■乗船体験学習の継続、ウッドデッキの更新
		7 マリン・生涯学習の充実	<b>1) マリン・生涯学習の充実</b> ■マリン（海洋）教育の充実 ■生涯学習の充実
		8 プレジャーボート対策	<b>1) 水面利用に関するルールづくり</b> ■水面利用のゾーニング <b>2) 施設整備などの受け皿づくり</b> ■係留施設の整備 ■係留施設の管理・運営

# 1 『まちの宝物』発掘・活用

## 方針

### 施策1 『まちの宝物』発掘・活用

地域には、歴史・文化、社寺仏閣、伝統行事、まつり、プレジャーボート、造船技術、漁業、農業など『まちの宝物』がたくさんあります。市民の手でさらに『まちの宝物』を発掘し、まちづくりに活用していきます。

## 大湊

【おおみなと】

### 造船で栄えたまち

大湊は古くから造船業で栄えたところ。伝承によれば4世紀、神功皇后が新羅へ出兵する際ここで軍船を建造したといわれています。平安時代末には源頼朝の名で軍船を建造し、御朱印を受け廻船の中心になったともいわれています。他のゆかりの人物として、倭姫命、義良親王、北畠親房、織田信長、角岸七郎次郎秀持、徳川家康、豊臣秀吉、九鬼嘉隆など多彩です。戦乱の時代には、奥州、坂東、東海、河内、九州と行き来する廻船から情報が、大湊や勢田川筋にもたらされました。県指定有形文化財大湊古文書によると、中世以来、時の勢力交替に対して一定の独立性を持ちながら、いち早く徳川勢力との関係を深めています。

造船技術は非常に高く、天保13、14年の記録によると造船の得意先は勢州、尾州、二州、阿州、讃州、摂州、伊豆、武州に亘り、大は1700石、1800石の新造22艘、作事10艘に及んでいます。また、造船と共に大正期までは和釘の生産が盛んでした。

「500石以上の大船は西洋型とする」との布告が明治20年から実施されると、大湊の造船所では早速三本マスト川板張りの洋式船の建造に取り組み、また技術者の養成を目的として町立の造船徒弟学校を設立し、若手経営者達が自ら講義し、現場の熟練者が実習指導しました。現在の伊勢工業高校の前身にあたります。



写真1/ 明治時代・造船工場

### 勢田川流域 大湊 案内



**大湊大仏 (おぼとけさん)**  
大湊集落には「おぼとけさん」と呼ばれる石仏が2体あり、東にあるのが釈迦如来、西が阿彌陀如来です。元禄8年(1695)、伊豆の石村で、江戸の石工が造ったと伝えられます。県内では最大級の石仏です。

**忘れ井と倭姫命**  
倭姫命が大湊に立ち寄りたとき、大湊に住んでいた漁取の船が冷たい水を差し上げたところ、倭姫命は「そう喜ば、水を汲んだ井戸のある地に「水簀社」を定め、大湊の浜を「簀取りの小浜」と名づけた。その後、簀取りの小浜を「鷺ヶ浜」、井戸を「忘れ井」と呼ぶようになった。また祭神を水戸御霊部神とする水簀社は明治40年に日保見山八幡宮の境内に移された。

**日本の歴史と共に**  
大湊の造船の歴史は古く、神功皇后が海路造船するための船を建造した古代までさかのぼります。特に有名なのは、戦国時代織田信長が造らせて、毛利水軍を撃破したという鉄甲り船(鉄甲船)。豊臣秀吉の朝鮮出兵の180人乗りの旗艦「日本丸」も、ここで造られた九鬼水軍の「鬼宿丸」です。また関ヶ原の合戦と大坂夏の陣の時、徳川氏の船奉行小浜と徳次郎が大湊に来て大船13艘つを建造しました。伊能忠敬の測量船、白瀬中尉の南極探検船等、著名な船を建造しています。元禄時代からの造船所「市川造船所」には、伊勢湾台風被害で、和船の資料は残念ながらあまり残っていませんが、徳川氏あいのこの船の重文クラスの資料も保存されています。

**海に開かれた工業都市**  
造船が栄えた江戸時代、大湊は近隣のまちとは違い漁業に従事するものはほとんどなく、工業都市でした。造船と共に特に鍛冶場が多く、大正期まで和釘の生産が盛んでした。釘問屋は常夜灯など多くの寄進をして茶室の跡を残しています。しかし今は鍛冶場も、わずかに一軒となりました。

鳥である大湊はその立地により「日の出」と「夕陽」、そして幻想的な「月明かり」が見られるところで、古歌にも多く詠われています。また西の川と呼ばれる宮川の河口には大洲があり、渡り鳥や水鳥が多く飛来します。遠浅の海となっている海岸の砂浜はウミガメの産卵場所でもあります。

**神宮貯木場跡 (阿場池)**  
大湊小学校の西側道路から南側水路に開かれたところはもと神宮貯木場で阿場池と呼ばれ、昭和20年代まで神宮の造宮御用材の貯木場として使われていました。御造宮材は木曾から後でここに運ばれ、内宮へは五十鈴川を、外宮へは宮川を、それぞれ上って運ばれていました。トラック輸送に替わり、貯木場としての役割を終えたため埋め立てられ、現在の姿になっています。

**灯明台跡・波除堤先端**  
1816年に築かれた6.3mの灯明台は松村で造られていました。当初は菜種油を燃やし光源にしていましたが、明治30年(1898)には屋根から丸い柱を突き出した石油ランプを使う灯台に建て替えられました。これは赤と白の光を出し、海上20km先から見えたといわれています。現在は「大湊波除堤」の碑が建っています。

### 大湊まちあるきマップ



### まちの歴史 ことば

**山田奉行と波除堤**  
山田奉行は1603年(慶長8年)伊勢の有滝に置かれ、6代奉行花房志摩守の時に御園村小浜に移転しました。大湊は高瀬や津波の被害を受けやすく、当時から堤防など改修をしてきました。今も一部、当時の波除堤の石積みが見られます。中でも享保13年(1728)、享保17年の二度にわたり工事をした奉行、保科源次郎には感謝の意を込め、顕彰碑が建てられています。また安政元年(1854)の大地震、また大津波で壊れた堤の改修をした秋山安房守は、病氣のため小浜で亡くなった後、大湊の長樂寺の墓地に葬られました。



写真2/ 昭和初期・大湊の堤防 (写真1、2 福原川沿いの「ふるさと」の思い出寄真真 伊勢) より転載



# 神社港

【かみやしろみなど】

## 伊勢の海の玄関口だった港町

神社港は万治年間(1658~61)に港が開かれたといわれます。以後、海の玄関口として大いに賑わった港です。中でも伊勢参宮する時は鐘や太鼓で伊勢音頭をはやしながら入ってきたので、地元では「どんどこさん」といって歓迎していました。明治時代には益々栄え伊勢湾に定期船が開かれてからは各地からの参宮客が殺到し黄金時代を迎え大いに栄えました。また物資の積出港として、沖を通る千石船の風待ち港でもありました。

明治20年神社港地誌調査による神社港の船舶、貨物の出入り状況は、一か年の出入り船舶3500艘100以下10以上の蒸気船8艘年間約1900回出入りとなります。

港周辺には船関係の商店、宿屋、遊郭が沢山あり、芝居小屋等もあり賑やかだったそうです。今もその血影を残す古い家並み、建物を少し垣間見ることができます。遊女を置いてある船宿も多く遊郭街を形成しており、「はりしがね」と呼ばれた船宿がありました。

明治30年(1897)に参宮鉄道が宮川から山田駅まで引かれ、それからは港も衰退していきました。しかし、現在も宇治山田港として、さまざまな船が港を行き来しています。平成17年からは、中部国際空港への海上タクシーも運航しています。



「おんべ鯛」奉納行事(中面参照)

勢田川流域 神社港案内

### 御饗神社(辰神さん)

外宮の摂社で、祭神は速須津日子命、食を得る神です。地元の産土神としても親しまれ、境内には「辰の井」という井戸があり一月初辰の日には水を分けてもらう人で賑わいます。この水を家の周囲にまくと火災除けになるといわれています。境内におかたまのきという珍しい木が数本あります。この木はもくれん科の常緑喬木で、葉は長楕円形か長卵形で交互に葉がついています。伊勢地方が北限だそうです。

### 清水次郎長と神社港

寛神山の騒嘩の復讐に伊勢にきた清水次郎長一家は神社港に住む伏客、白根要介の仲介により戦わずして勝利を取ったという話が講談となって伝えられています。白根要介はもと武士で北辰・刀渡の使い手であったといわれています。

### 勢田川神社港の賑わい

江戸時代、神社港は勢田川を代表する船着場で500石、700石、時には1000石船が発着していました。勢田川の各町の往來は頻繁で、現在ならタクシー、バスに相当する渡し船、乗合船が活躍、料金は合会所や奉行所に届済み、船頭さんは主に神社、大湊、今一色の経験豊かな老船頭で、港の世話役でした。

この船頭さんたちは港の維持管理を助け、また神社町役場の依頼に応じて検潮その他港の正確な諸記録を残してくれました。



### みなとまち館

在りし日の港町の文化を多様な資料や民具、船具を通して伝えています。屋上展望デッキからは、港から伊勢湾を見通す景色を見ることが出来ます。

明治初め共立汽船、神田汽船両社が熱田港と神社港の間を一日3便運航し、河岸は人と車で錯綜しました。昭和8年の統計によると、入出港船舶合計貨物船16000隻、漁船8160隻、遊覧船1900隻、合計26060隻と、賑やかな港風景が目に浮かびます。

神社みなとまちあるきマップ

遊船賃 昔の資料から  
●天保2年(1832)  
遊船賃申し合わせ  
河橋一高 城清6文  
神社一高 城清4文  
●昭和18年頃  
神社起点 一色2銭(夜3銭)  
今一色25銭  
大湊30銭、朝熊村30銭  
【神社渡船組合15回】

### 御饗鯛船の献送迎式

録島からの船による伊勢宮へ「干鯛」の奉納は一時途絶えていましたが、平成10年に復活し、今は神社港がその受け入れ港になっています(かつては阿波まで来ていた)。「おんべ鯛」といわれる「干鯛」は、毎年10月12日以内宮に奉納され、その行事が今では録島と神社港の交流の場になり、お互いに「おんべ鯛」奉納行事を地域の誇りとして、老若男女が参加しています。特に子供たちも吹奏楽、木造り等を行い行事の真を担っています。



### まちの歴史名所・旧跡

#### 清雲院と阿夏の方

清雲院は徳川家康の側室だった阿夏(おなつ)の方の菩提寺です。阿夏の方は津の武家の娘として生まれ、戦国の世を生き、その度胸のよさで家康の危機を救ったこともあり、家康から大きな信頼を得ていました。

阿夏の方は家康公の没後、公への報恩と菩提を引くため、寛永7年に度会郷山田吹上松原に浄土宗「青雲院」を創建。40年後「なたや火事」に罹災して延焼し、山田妙見町にある寿厳院の東南に当たる尾部の山(青雲院山)に再建されましたが、再度罹災し以後、廃寺同様となりました。

御園村小林清林寺住職徳譽海順上人は、明治14年神社港善応寺跡の学校用地跡に浄土宗記念教会所を、大正4年8月に清雲院を建立しました。上人が普山した清安院、妙楽寺、清林寺、青雲院と、「清」の字に因縁がある寺が多く、阿夏にゆかりがあるとして阿彌陀三尊、阿夏の方の尊像がこちらの清雲院に安置されることになりました。

# 一色

【いっしき】

## 地域に受け継がれた「一色能」

一色は、勢田川と五十鈴川との下流に出来た浜州で、通町との間にはかつて中川があり、長さ約20間の橋大橋が架かっていました。古文書によると約800年前、鎌倉時代にはすでに一色という地名が記されています。

一色といえば、まず地域に受け継がれた「能」で知られています。南北朝時代に伊勢国司の北畠氏や、神宮からも保護を受け「伊勢三座」といわれた和谷流(松阪市和谷)、勝田流(玉城町勝田)、青芋流(松阪市時和)が、織田信長に北畠氏が滅ぼされたため神宮を頼って、勝田流が通、和谷流が色、青芋流が竹ヶ鼻に移り住んだといわれています。その後、青芋流は途絶え、現在は二座となっています。

一色能は、現在も地元の「一色町能楽保存会」によって継承され、中でも「翁」は国の無形民俗文化財に指定されています。また能面や衣裳が三重県、伊勢市の文化財としても指定されており、地元の誇りとなっています。

毎年2月には「通能」が、3月には一色能が、氏神の神社の祭りに奉納され、町外や遠くは県外からも鑑賞者が訪れています。また、伊勢市にはその他、馬瀬町にも「馬瀬狂言」が伝えられています。



一色能

## 勢田川流域「一色」案内

### 塩田、のり養殖そして砂利採取

五十鈴川と勢田川に挟まれた一色は、かつて塩田が盛んで、播州赤穂にも匹敵する良質な塩が生産され、神社港の廻船問屋を通じて遠く関東方面にも出荷されていました。昭和20年には塩自給製塩協会の砂利採集が盛んでした。色の海岸には宮川の砂利を採取する砂利船、海苔やアサリ貝取の船(小べか)がたくさん浮かべられていました。

海苔の養殖も昭和21、5年をピークに伊勢地方一の品質として高値で取り引きされていました。日当が300円の時代に100枚450円〜600円に落ちたという記録が残っているそうです。

### 十貫松ものがたり

昔、一色の向崎の川縁に一本の大きな松が立っていました。商用を兼ね伊勢神宮へ参拝に来た船道者が、両宮を参拝して、取引先の商家から集金して旅費で銭勘定をしましたら十貫文もありました。船待ちをしている時にお金が入った袋をその松の枝にぶら下げていたが「松が出るぞ」の声でそのまま急いで船に乗り込んでしまいました。船が走り出しても気がつかずじまいで、在所についてから思い出しましたがどうすることも出来ません。

仕方なくあきらめてかけていましたが、翌年も集金にきて、松の木を見ますと運良く集金袋がお金も入ったそのままぶら下がっていました。それから、いっしきこの松は「十貫松」と呼ばれるようになりました。この話から一色の人々は「一色のものは正直で曲がったことをしない」と胸を張ります。

注意!

一色大橋の上からは上流部の山並み下部は海へとつながり、遠く知多半島、時には富士山を望む展望のポイントです。



「一色」まちの歴史マップ



## まちの歴史こぼれ話

**一色町台場跡**  
幕末になって日本を黒船(外国)から守るということで各地に砲台が設置されました。伊勢も神宮を警護するというので久居藩によって二見、今一色、大湊と、一色町に砲台が予定されましたが、砲台のものは二見以外は作られませんでした。  
十が盛り上げられた台場跡は、現在は1反8畝2歩の畑になっていますが、地元では今も「台場」と呼ばれて名残を残しています。



### 昌久寺

昌久寺本堂は、元・御師、橋村大夫邸の建物です。昭和の初めまで現在の宇治山田駅前、観光文化会館のところにあり、宇治山田市の図書館として使用されていましたが、駅前整備に合わせて、移築したものです。現存する御師の建物が少なくなった今、御師の顔を知る上で貴重な建物です。

# 二軒茶屋

【にけんぢやや】

## 昔、二軒の茶屋あり

二軒茶屋というのは、昔ここに二軒の茶屋うどんの「湊や」と餅の「角屋」があったことから名づけられたといわれています。うどん屋は廃業しましたが、天正年間(1573-92)創業の二軒茶屋餅角屋本店はかつての茶屋風情を今も伝えています。

二軒茶屋地区(神久6丁目)は、かつて旧二見街道に沿って河岸が広がり、船着場がありました。内宮・外宮の両方へ近いということで、尾張、三河、静岡方面から大湊を経て、勢田川をさかのぼってくる船客の上陸地として栄えました。明治5年(1872)にはじめて明治天皇が海路で神宮参拝された時はここ二軒茶屋に上陸。地域の人々によってその記念碑が建てられています。

昭和10年頃の地図を見ると、二軒茶屋は旧二見街道沿いに旅館やお店(うどん屋、下駄屋、昆布屋、傘屋、豆腐屋、桶屋など)が並び、参拝客をはじめ近隣の人々が利用して賑わっていました。

明治36年に開通した神都線(市電)が明治38年12月に内宮、二見、山田駅の三つの地域を繋ぎ大変便利になりました。三地域への接続点であった二軒茶屋駅はより以上に利便がよく、二軒茶屋は海と陸との結節点として船客の人々に親しまれました。

今は「川の駅・二軒茶屋」に隣接するかどや民具館をはじめ、角屋味噌溜り醸造場(伊勢まちかど博物館)や地ビール工房友酒蔵があり、かつての船客茶屋の歴史をいかした地域として親しまれています。



### 二軒茶屋と どんどこさん

船で伊勢湾を渡り伊勢参りにきた人の多くは、勢田川この辺りまで上ってきました。鐘や太鼓を鳴らしながら賑やかにやってきた姿を見て川沿いの人たちは親しみを込めて「どんどこさん」と呼びました。

●どんどこ祭り  
かつての船客茶屋の賑わいの風情をテーマに民間有志で始められた祭で、今では5月の連休の後の十、日に開かれています。常滑からお稚子連がきてどんどこ船に乗りだして海上パレードなど盛りだくさんのイベントで賑わいます。



### 二軒茶屋餅本店とその界隈

角屋(現二軒茶屋餅角屋本店)は天正年間創業の老舗。旧二見街道沿いに今もかつての風情を残す建物があります。名物・二軒茶屋餅は、きなこがまぶされた丸い餅で、昔ながらの変わらない味が人気です。



角屋民具館、角屋味噌溜り資料館は伊勢まちかど博物館として公開されています。また地ビール工房「友酒蔵」で、地ビールが楽しめるのは、昔はなかった二軒茶屋の楽しみの一つです。

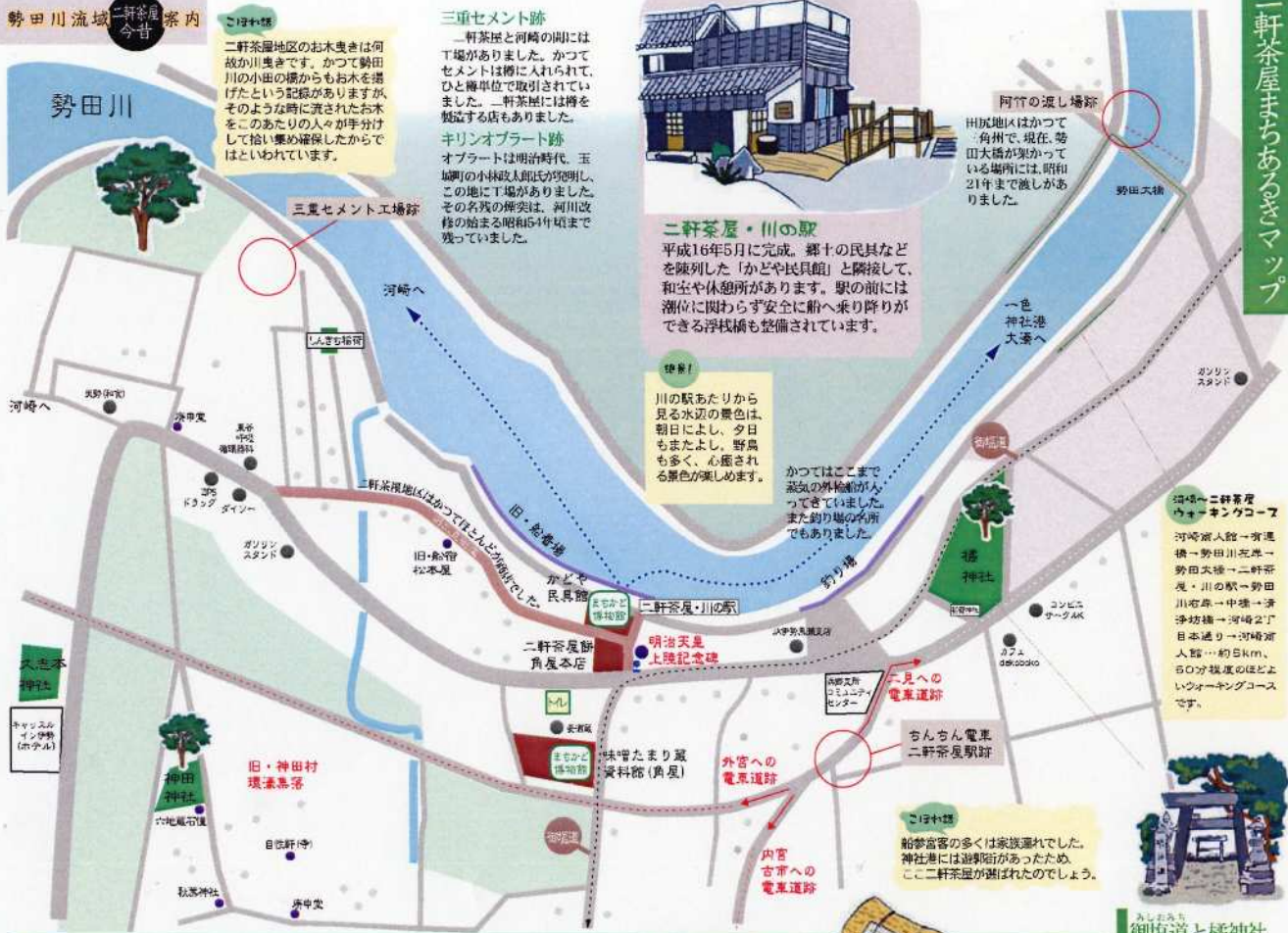


### みえまち御塩道と橋神社

神宮は二見で塩を作っていますが、二見の御塩殿から外宮に塩を運ぶ道を御塩道と呼ぶこの地域は、道中の中間地点。かつて御塩を運ぶ途中、唐櫃を唯一置くことができるのが橋神社の石の上と決められていました。



二軒茶屋駅(昭和30年代)



### まちの歴史 名所・旧跡

#### 伊勢のちんちん電車(神都電車) 二軒茶屋駅跡

神都線は明治36年8月に山田の「本町」と二見間が開通。明治38年12月に内宮、二見、山田駅前の三つの地域がつながりました。その後、昭和36年に廃業するまで「観光地伊勢の寵児」として大きな役割を果たしました。二軒茶屋は、ちょうど内宮、二見、外宮の3方向に便利のため、船と陸との接続点として賑わいました。

### 二軒茶屋まちあるきマップ

# 河崎

【かわさき】

## 【伊勢の台所】河崎の起り

河崎は、戦国時代初期(1487年頃)に、地元豪士である河崎宗次が領有し、防衛のため惣(そう)門と環濠(かんごう)を備えたと伝えられています。

16世紀に入ると伊勢神宮前門町の山田・宇治へ物資を運ぶために、勢田川を利用した船による水上輸送と、河崎から物資を荷揚げして、人馬で山田・宇治へ物資を送る陸上輸送を仲介する川の港として賑わいました。東国と西国の多くの人が往來するターミナル的な商業都市でもあり、戦国時代末期には既に、物流と金融の中心地域だったのです。

江戸時代には「おかげまいり」の参宮客に物資を供給する巨大な問屋街として大きく成長しました。さらに山田奉行より伊勢神宮周辺地域の米と魚の卸売り専売権を認められ、名実共に「伊勢の台所」として全国に知られた商人町となりました。

明治時代に至っても、商業の中心地としての地位を維持し続けました。しかし、戦後になって物資の主力輸送がトラックや鉄道などの陸上輸送にかわるにつれ、商業地の中心は駅周辺へと移っていきました。しかし、河崎には現在も、当時の様子を今に伝える問屋・小売店が店を構え、往時の蔵や町なみを色濃く残す商人町として生き続けています。



昭和9年頃 中橋より北新橋

## 勢田川流域 河崎 案内



### 河辺七種神社・河崎天王さん

河崎の産土神で、スサノオノミコト、菅原道真公など11神が祀られています。河辺七種神社の神事「天玉祭」は7月14日。伊勢の夏祭り「河崎の人下さん」として親しまれています。近年は、昔年による前典が町を練り歩き、活気のある祭となつています。祭のクライマックスは川辺の町らしく川面を走る金魚花火で、花火が始まると川谷には幻想的な風情を醸し出します。

### 町並みの見どころのひとつは、切妻・妻入りの瓦屋根

「直根」「ソリ」「ムクリ」といわれる屋根の形の違いを見比べてみてください。屋根の隅には「隅蓋」と呼ばれる飾り瓦がよく見られます。家によって亀やカエル、桃など縁起のいいものに水につわるものなどさまざまです。



隅蓋(すみがい)

### 伊勢河崎商人館

江戸時代に創業された酒問屋「小川酒店」は、川に面した蔵を持つ河崎を代表する商家です(平成13年、国の登録有形文化財に登録)。その建物を伊勢市が修復整備し、平成14年に伊勢河崎商人館として再生。NPO法人伊勢河崎まちづくり家が運営管理を行っています。

母屋や蔵、河崎まちなみ館では資料を展示公開。川沿いの3つの蔵はミニショップが集まった商人蔵です。そして角吾座ホールや茶室、お座敷の貸し室もっており、河崎のまちづくり活動の拠点として賑わっています。毎月第4日曜日は「伊勢のいだいご市」が開催されています。

### 河崎の町なみ、土蔵

川に並行に走る通り沿いに切妻屋根が並び、妻入りの町家や蔵が並び、それが河崎の町なみの特徴です。河崎の川沿いの土蔵は、川から直接荷物が出入りできるように川側にも入り口が設けられて、独特の川沿い景観を形成していましたが、今では河川改修で堤防越しに見ることしかできません。



しかし、まちのあちこちに昔の面影を残しており、蔵や民家を再利用した新しいお店もできて、懐かしさを感じる町なみとして親しまれています。

### 清浄坊橋

一見の御座敷から外宮に坂を遡る御座敷が勢田川を渡るのがこの橋です。橋の名前は清浄な道ということからきています。

### 汐湯・おかげ風呂館 旭湯

清浄坊橋の右岸にあるお風呂屋さんですが、かつて二見浦ではじまった海水浴場を再現し、風呂文化の紹介をはじめ清川の歴史、銭湯の元祖といわれる伊勢の「与一」を顕彰したりと、お風呂を通して、まちづくりに取り組んでいます。

### 暮らし体験 河崎・南町の家

明治初期に建てられた妻入り2階建てを修復し、河崎の生活が体験できる家です。(体験料有料)伊勢河崎商人館が運営しています。

## 河崎まちあるきマップ



## まちの歴史 名所・旧跡

### 環濠と惣門

江戸時代の地誌(ガイドブック)では、河崎は環濠と5つの惣門を備えた自衛都市として紹介されています。江戸時代の多くの絵図にも勢田川を利用した水路である環濠と土塁が描かれています。現在ではその多くは暗渠化していますが、一部にその痕跡を見ることができます。

### 河崎三橋(南新橋、中橋、北新橋)

勢田川に架かる河崎地内の三つの橋を河崎三橋と呼びます。上流の南から南新橋、中橋、北新橋の順で架かっています。当初は戦国時代の天文13年(1485)に架橋したといわれる河崎大橋(現中橋)だけでしたが、安政4年(1857)に右岸(向河崎)で大火があり、消火活動などが不使であったので、翌年の安政5年、山田奉行に申請し、北と南にそれぞれ200メートル離れた場所に大橋と同じ太鼓橋の木橋を造りました。現在の橋は勢田川改修の際、架け替えられたものです。



河崎は問屋と製造所が連携して存続に取り組んでいました。

# 名勝 二見浦ものがたり

## 日本の古き良き海辺のまち

歌枕の地として……  
消き浦と称され万葉の昔から佳景を讃えられてきた二見浦。その思いが詠み残され、西行、芭蕉をはじめ多くの文人がこの地を慕っている。

### 倭姫命のおはなし

●二度振り道つ  
葦仁天皇の時代、天照大神神座の地を求め、倭姫命が御代となり、伊勢平野を越え、海に舟を浮かべ、二見浦に立ち寄った。その美しさゆえに、二度振り道つと伝えられている。そのことから「二見」を名づいたと言われている。

●里道のおもてなし  
倭姫命を迎えた佐見津日女命が聖域をもつておもてなしをした。この道に倭姫命は喜び、神宮へ供進する御塩は二見浦から奉るようにと定めたという。

●五十鈴川の留り島と御産石  
倭姫命が日没に舟を泊め、三津の御産石の川の突出部に宿をとった。これが宿り島と言われる場所であるが、今は原形をとどめていない。また五十鈴川を上っていくときに、途中腰をおろして休んだと伝えられる御産石が川岸に残っている。水位があがると隠れてしまう。

### 二見かえる

二見奥玉神社の御祭神・猿田彦大神は天孫君臨のとき、道案内をし、古くから交通安全の守護神として広く信仰されている。かえるはその大神のおつかいと言われている。今でも無事かえる、買ったものがかえるなど縁起のよい二見のお守りキャラクター、かえる飾りも人気。

### なつかしの二見名物!

●生 養 糖…お土産に喜ばれる生養糖を計り売りしていた。  
●石 仙 餅…岩滑で修行後、二見で開業した石仙。朱泥や紫色の地肌に見事な色合いの茶碗など、センスのよい茶器を多く作った。茶屋に朱泥色の陶製茶器がある。  
●小石菓子…おもしろい石の形をした砂糖のお菓子。  
●さざえ…塩先で売るさざえのつぼあきは香ばしい匂いだ。  
●貝 工…浜辺のよき思い出。  
●ア メ…浜御宮に来た人たちが、アメをお土産に買ったという。

### 醸造の商い 味噌・醤油・酒

江戸中期には、五十鈴川支流の河口・江に醸造業者がぞくぞくと進出してきた。江味噌として評価された。今でも味噌蔵が道りに建つ。また今一色では神間五で「和合(五正宗)」という酒を作っていた。

### 漁業の町 今一色の伊勢産

今一色には磯を渡る船政職人がいて、伊勢産と銘打って有名であった。もともとは造船用の釘製造から始まったと考えられている。型の種類も多く、切れ味の良さは三見、愛知で評判となり、船で大量に輸出された。

### 西の庚申さん、日待供養塔

松、タブ、楠の成る曲がり角に庚申堂がある。享保14年(1729)と刻まれた青銅金剛の像が安置されている。構には、日本最古といわれる六字名号日待供養塔がある。



### 神宮の摂社・末社・所管社

●神前神社(アマノコヒメ)、許母利神社(ミチマミコト)、筑前神社(アサキヨメ) 松下山の頂上に鎮座する。伊勢湾を見渡す景勝の地。粟皇子神社(アケミコ) 倭姫命に御養えを奉った海濱漁人の神を祀る。海岸の向こうに飛鳥が見える。江神社(エガキ) 祭神は五穀守護の三柱の神。谷に蘇我明神とも称される。聖田神社(サキタヒメ) 倭姫命を出迎えた佐見津日女命のために造られた神社。御産石神社 境内には神楽と御塩御殿、裏の松林に御塩焼所と御塩入所があり、神宮の御塩を千年の昔から焼いている。

### 神宮の供物

●御塩 御塩焼から神願である塩を食の神様・外宮へ運んだ道。奉製された聖塩を辛味におさめ、煎後まで約8時間の道のりを歩いていた。

### 御塩道

御塩焼から神願である塩を食の神様・外宮へ運んだ道。奉製された聖塩を辛味におさめ、煎後まで約8時間の道のりを歩いていた。

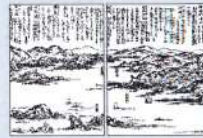


### 太陽信仰 夏至の夫婦岩

日の出の場所、二見浦。夏至には夫婦岩のちようどまん中から一年で一番力強い太陽が昇る。夜から朝へ、冬から春へ、太陽の恵みを祈り、五穀豊穡を願う。夏至祭には夫婦岩前で観覧を行う。

### 浜の名前

浜に面した二見浦には趣のある浜の名前がつけられている。



### 江の徳江社(御産石)

入り江を巻いて陸のように松が並んでいたのが徳江松と呼ぶようになったとか、江神社を別名・蘇我明神と言ひ、蘇我村近のことであろう。

玉くじけ 二見の浦の貝くじけ さいとに見ゆる 秋のむら立 『金葉集』(1127)大守臣補

二見浦にはきれいな貝がたくさんあり、一帯には美しい松が野生している。その光景はまるで錦絵を見ているようだ

### 妻入りの木道建築

旅館街には明治の頃の木道の建物が並んでいる。神宮の平入りに対し、同じでは恐れ多いと、妻入りの造りが多い。



### 江の猿田彦石

河口が大きく広がり、村が南の谷にあったころ、太江寺の鎮守・奥玉神がこの大岩に寄り付いたと言われている。また近くには清水が湧き出る弘法(新道)の井戸もある。



### 荘 不断寺 円空仏

円空作の森鼓天(高さ19.5m)が祀られている。延宝初期(1672)に、伊勢志摩地方を巡遊したときのものであると言われている。

### 二見小学校校歌

一番は明治天皇 二番は昭憲皇太后の御製 ありがたい校歌である  
五十鈴川 清き流れの すてきみて ところをあらへ あつしまびと  
さいのぼる 朝日のとく さわやかに またまほしきは ころなりけり



### 二見十景

●「二見名所考」昭和3年発行、著者紀山道三と北村正三による二見の名所百景十景。

●夫婦岩 夏至の頃の日の出が有名だが、冬頃の満月もちようど夫婦岩の真ん中から昇り、煙と夫婦岩を照らす。

●五十鈴川 内宮奥の高麗広を源流とし、神域を抜け鹿通で2本に別れ、二見を囲むように流れている。昔は川幅数百メートルであった。

●御産石 伊勢神宮に奉納する塩を作っている。御産石で汲んだ御水を荒瀬にして10月5日の御塩御焼祭と3月6日に堅塩に焼き固めている。

●岩窟(石門) 神前灯台の崖下にあり、千雨時にしか訪れることのできない石門。粟皇子神社を拝する場所でもある。

●高城浜 明治4年(1871)の神宮改革前まで外宮の御宮が破れを修め、海水を浴び身を清めていた。冬になるとのりそだが立つ。

●蓼葦(片葉の葦) 神様が吹く吹き、葉が片割に割って傾いたとか。昔は葦原と言われるほど広範囲に生えていた。田んぼそばの水路で青々とした姿を見ることができ。

●西行庵 晩年の足掛け7年を二見の安楽山で過ごした西行。五峰山の西の端の小さな丘が笠石山で、ここが安楽山と呼ばれている。

●太江寺 平安初期の真言宗密厳堂の開創といわれるが行基との説も。伊勢産の一番所。本堂には国の重要文化財・千手観音坐像が安置されている。ベットの寺としても有名。

●音無山 伊勢平野の端にある標高約120mの山。伊勢三郎義盛の墓があったため元では「三郎山」とも呼ぶ。

●清清 西は今一色より東は松下に至るまで、二見海岸一帯の磯。白波寄せる砂浜で静かに潮がすのめよい。

### 三津 明皇寺 木造薬師如来坐像

松材の一木造で国の重要文化財である薬師如来が祀られている。荒木田・度会神主吉津の遷宮あり、金剛寺の末寺である明皇寺は天正元年(1573)開基で、ほかに笠石門元や不動明王の像を安置する。

### 賢海神事(神前海岸) 藻刈神事(二見奥玉神社)

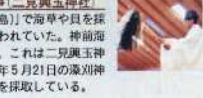
明治の頃まで神前の岩窟(御産石)で海草や貝を採り、内宮にお供えする賢海神事が行われていた。神前海岸では流れ着いた藻をよく見かける。これは二見奥玉神社のお祓いで使われる無垢海藻。毎年5月21日の藻刈神事では、奥玉神社付近の海中から藻を採取している。

玉くじけ 二見浦に すむあまの わたらひくまは みるめりけり



### 藤の天覚寺

使果坊通海大興寺建立祈願のため日蓮宗、天覚寺で大般若経転読を行った。その衆徒は700余名におよんだとか。江と三津の「能小松」の谷間付近にあったようだが、謎に包まれている。



神風 伊勢の流波折り伏せて 娘やするむ 見き流波に 『万葉集』



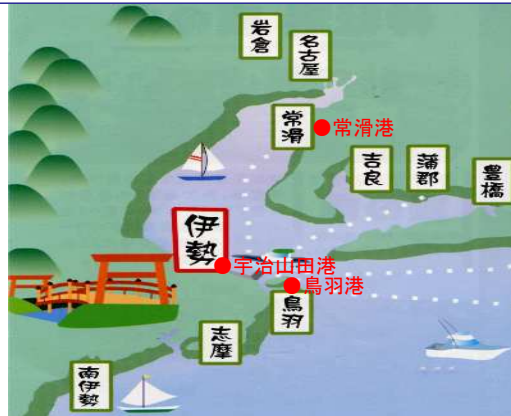
絵四引用:『伊勢参宮名所図説』、『神前名勝誌』

## 2 宇治山田港へのアクセスづくり

### 施策1 海上アクセスの整備

#### 1 伊勢湾・三河湾

プレジャーボート等による常滑港など、環伊勢湾・三河地域へのアクセスづくりを視野に入れ、クルージングネットワークの確立など、海上アクセスの整備を促進します。



#### 2 宇治山田港(勢田川・五十鈴川)

伊勢市都市マスタープランにある『勢田川歴史文化交流軸』の整備を進めます。また、朝熊山麓広域交流拠点とをつなぐ五十鈴川ルートを検討します。



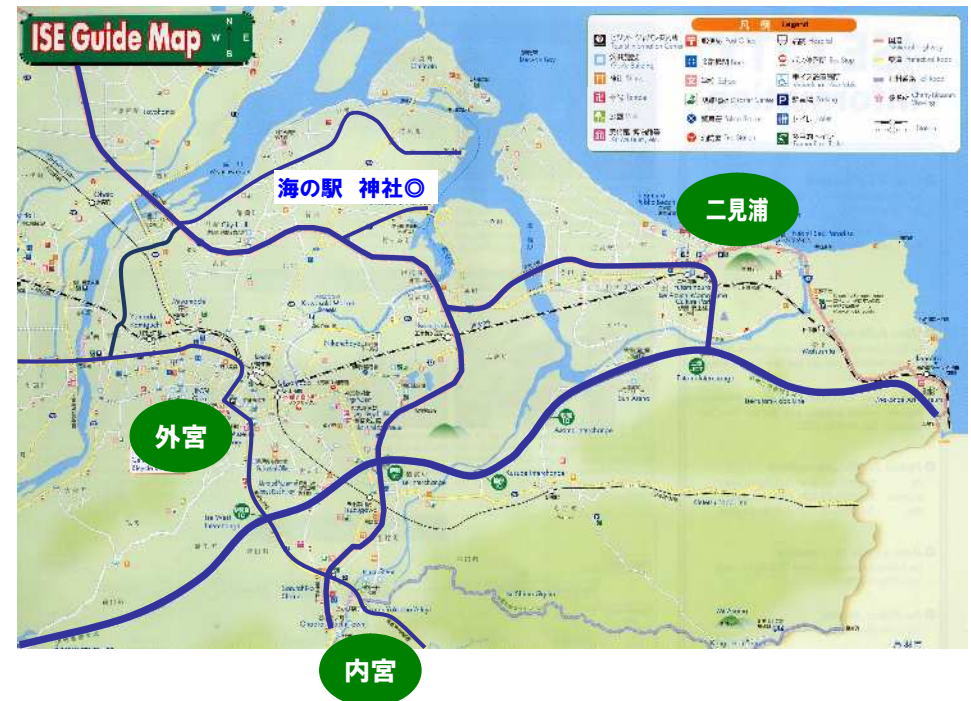
### 施策2 陸上交通の整備

#### 1 臨港道路の整備

市内幹線道路とつなぐ臨港道路を整備し、外宮・内宮等交流拠点、観光資源と有機的に結びます。

#### 2 交通結節点の整備

交通広場、駐車場など交通結節点の整備を進めます。



方針



宇治山田港 海の駅・川の駅

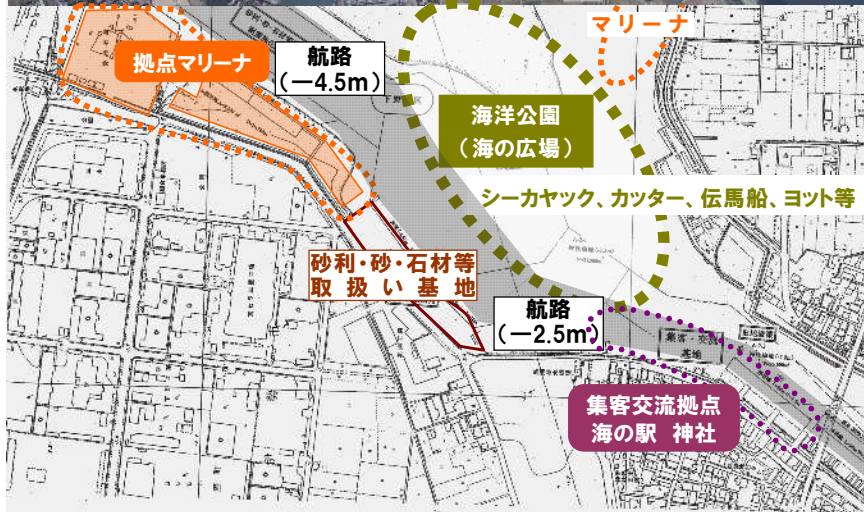
伊勢型木造船 『みずぎ』

### 3 集客と交流拠点づくり

#### 施策1 広域交流拠点づくり

##### 1 宇治山田港 広域交流拠点整備構想

市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒す「みなとまちづくり」の活動拠点としての宇治山田港交流拠点整備構想を提案します。



方針

#### ■海の駅神社 拠点ターミナルとしての整備・活用イメージ



#### ■レクリエーション拠点としての活用イメージ(例)



## 施策2 クルージングネットワークづくり

### 1 交流ネットワークの確立

プレジャーボートを活用した地域振興・交流機能の充実を図るため、伊勢湾・三河湾・遠州灘等のマリーナ等と連携したクルージングネットワークの確立をめざします。

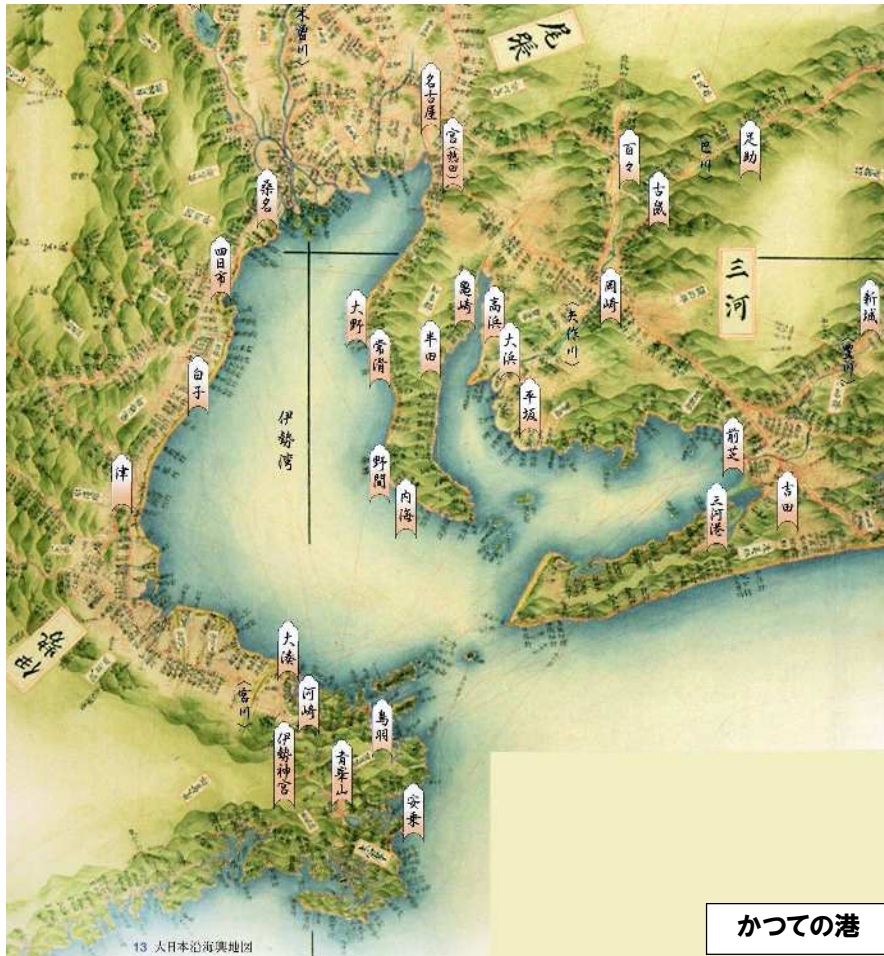
### 2 クルージング受入機能の整備

クルージングの受入が可能となるマリーナなどの整備と背後地のまちづくりを進めます。

### 3 クルージング体験イベントの実施

交流ネットワークの確立と海上アクセスづくりに向け、既存マリーナ協力のもと、クルージング体験イベントを実施します。

方針



13 大日本沿海輿地図

かつての港

## 施策3 川の魅力づくり

### 1 川の魅力づくり

- 賑わいの中心となるような魅力のある水辺空間の創造
  - 川の駅・海の駅整備を進め、川から見た風景を考えた水辺空間整備を行います。
- 河川空間と商業空間が一体となった新たなまちの醸成
  - 歴史的町並みを眺めながら沿川を散歩し、人が集うことのできるような空間整備を行います。
- 住民参加による環境整備
  - 宮川からの清流を利用し勢田川浄化に取り組んでいます。住民参加による「七夕おそうじ」や「水質浄化目的のとうりゃん瀬」等の事業をさらに進めます。

かわまちづくり  
(平成21年5月22日国土交通省認定)



環境マップ





## 施策4 海岸の魅力づくり

### 1 宇治山田港海岸 大湊地区

大湊地区海岸は、「自然に親しみ、歴史を感じさせる海岸」をテーマとし、「ふるさと海岸整備事業」として平成4年度から11年度に海岸整備事業が行われました。地域住民やNPO等地域が連携協力し、自然環境や地域固有の歴史をいかした魅力ある海岸づくりをすすめます。

### 2 宇治山田港海岸 二見地区

日本で初めて海水浴場に指定された由緒ある海岸です。砂浜は侵食によりかつての風景を失いつつあり、堤防の老朽化も見られることから、平成12年度より海岸整備が行なわれています。青少年や地域住民との世代間交流の場、自然・社会教育の場、マリンスポーツの場としてユニバーサルデザインにも配慮した利用しやすい魅力ある海岸づくりをすすめます。

方針



## 施策5 歴史・文化の継承

### 1 宇治山田港の豊かな港湾史の研究

伊勢郷土会を中心に港湾史の調査研究を進め、歴史・文化の継承に努めます。

### 2 資料館の建設

港湾史の調査研究成果、地域あるいは個人で所蔵している宝物の展示を行い豊かな歴史・文化の継承に努めます。

### 3 まちかど博物館の整備

まちかど博物館は市民の手による手づくりの博物館です。『人間だれでもちょっとした場所さえあれば、自分の好きなものや誇れるもの、楽しみをもとに博物館の一つくらいはつくれる』を基本テーマに市民のまちおこし団体『ザ伊勢講』により始められました。

地域内では、ゴーリキ（大湊）、かどや民具館（二軒茶屋）、味噌たまり蔵資料館（二軒茶屋）、和具屋（河崎）が指定されています。まちかど博物館の整備を促進し、地域資源としてまちづくりに活かします。

### 4 河崎歴史文化交流拠点の整備

勢田川沿いを中心に河崎のまちなみを面的に再整備し、土産物店や食べ物店の集積を図り、また歴史的建築物を展示館など利活用しながら歴史と観光が一体化した新たな伊勢の交流拠点の創出を目指します。

### 5 二見町茶屋地区観光交流拠点

二見浦の風光明媚な自然景観の保全と歴史的・文化的な趣が色濃く残る街並みの整備を進めるとともに、地域住民が主体となるイベント等の開催による誘客に努めます。

### 6 歴史・文化のネットワークづくり

『まちの宝物』として市民が選んだ地域資源をネットワーク化した散策ルートづくりを進めます。

### 7 能楽舞台の建設

遠く神宮の神領であった神三郡と呼ばれた地に伊勢三座（和谷流、勝田流、青尾流）といわれた三つの猿楽の座がありました。伊勢三座は室町末期に後を保護を受けていた国司北畠氏が滅んだので、神宮との関係を一層深め、和谷流が一色、勝田流が通、青尾流が竹ヶ鼻に移り住みました。一色の能面は現在41面現存する中、江戸初期以前のもの12面。なかでも能楽発生期のものも含み、いずれも独創的な優れた造形美を秘めています。能装束も豪華絢爛たるものです。能楽舞台を建設し、貴重な『まちの宝物』としてまちづくりに活かします。

### ・伊勢ゆかりの木造船建造『匠の技』伝承 伝馬船建造・記録保存

(主体：NPO法人神社みなとまち再生グループ 支援：宇治山田港湾整備促進協議会)



### ・資料館『神社みなとまち館』整備 (主体：NPO法人神社みなとまち再生グループ 支援：宇治山田港湾整備促進協議会)



### ・伊勢地域活性化に資する木造船建造・技術伝承

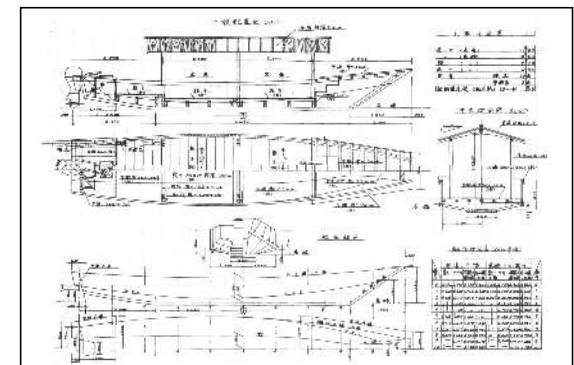
主体：(社) 東海小型船舶工業会

支援：宇治山田港湾整備促進協議会 NPO伊勢『海の駅・川の駅』運営会議



### ・歴史文化案内版等の整備

(主体：各地域)



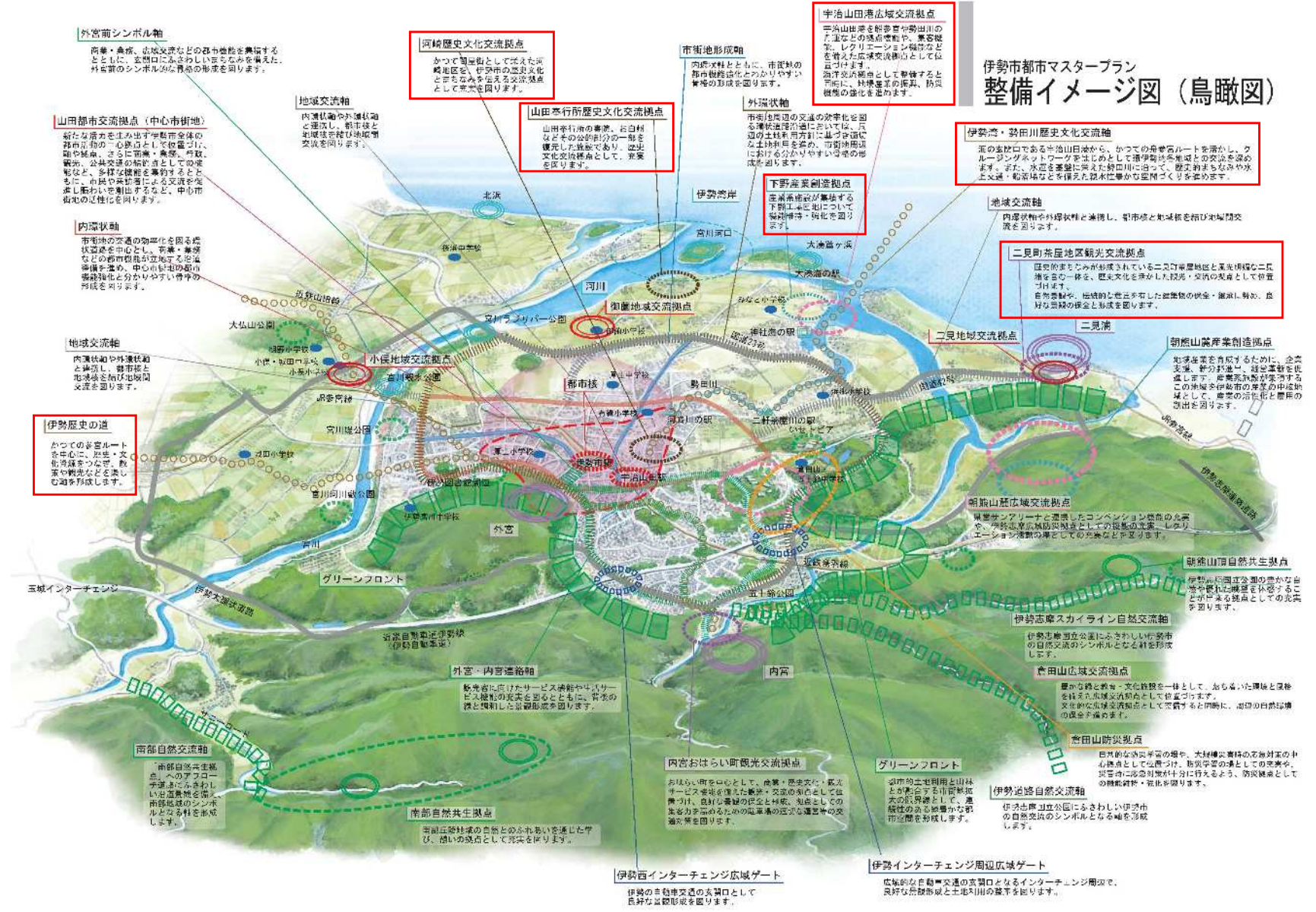
# 施策6 域内交流拠点・観光資源との連携

## 1 域内交流拠点・観光資源との連携

伊勢市都市マスタープランで掲げる他の交流拠点、観光資源との連携をすすめます。

〇 みなとまちづくりに関するもの

方針



## 施策7 「みなと」を核としたまちづくりの促進

### 1 みなとオアシスの登録

地域住民の交流や観光の振興を通じた、地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩、地域の観光及び交通に関する情報提供、災害時の支援、商業機能などの役割を担うみなとオアシス（国土交通省）の登録を目指します。

登録後も取り組みが継続的に行っていくため、新たな担い手確保に向け、支援・育成を行います。

### 2 地域住民、観光客等の交流及び休憩施設の充実

広場や会議室等の交流スペースに加え、駐車場やトイレなど休憩に利用できる施設の充実を図ります。



### 3 地域の観光及び交通に関する情報提供機能

旅客施設、観光案内施設等、みなとの情報に加え地域情報、観光情報等を提供する施設の整備を進めます。



### 4 災害支援機能の強化

耐震強化岸壁などのハード整備に加え、津波タワーや公共用地などを活用した高台などの避難場所、避難ルートの整備、広場等の交流スペースを災害発生時における救援物資の置き場所等として利用するなど、「みなと」を中心に災害支援機能を強化することで、地域の安全や生活の安定を確保します。



### 5 物販、飲食等の商業機能の充実

市場や商業ビル、産地直売施設などで、地域の特産品販売やイベントの開催など行うことにより、地域住民による継続的な地域振興を図ります。



## 4 地場産業の振興

方針

### 施策1 造船業の振興

- 1 修理等ホスピタル機能の付加
- 2 造船技術者の育成
- 3 伊勢造船マイスター制度の実施
- 4 FRP船リサイクルシステムの検討

### 施策2 漁業の振興

- 1 荷捌き場の整備
- 2 後継者の育成
- 3 地域ブランドの確立
- 4 観光漁業の確立
- 5 販売ルート の 確立

### 施策3 農業の振興

- 1 朝市
- 2 市民農園
- 3 花栽培

### 施策4 新産業の創造

- 1 マリーナ業
- 2 小型客船等の運航業

稚貝・稚魚の放流事業



車えび放流



料理教室



漁獲物の移動販売等



市民農園



朝市



# 5 防災機能の強化

## 施策1 海の防災活動拠点整備

### 1 緊急物資輸送基地の整備

宇治山田港海の駅神社付近にある公共棧橋、公共埠頭の機能を強化し、震災時における海からの緊急物資輸送の活動拠点として整備します。

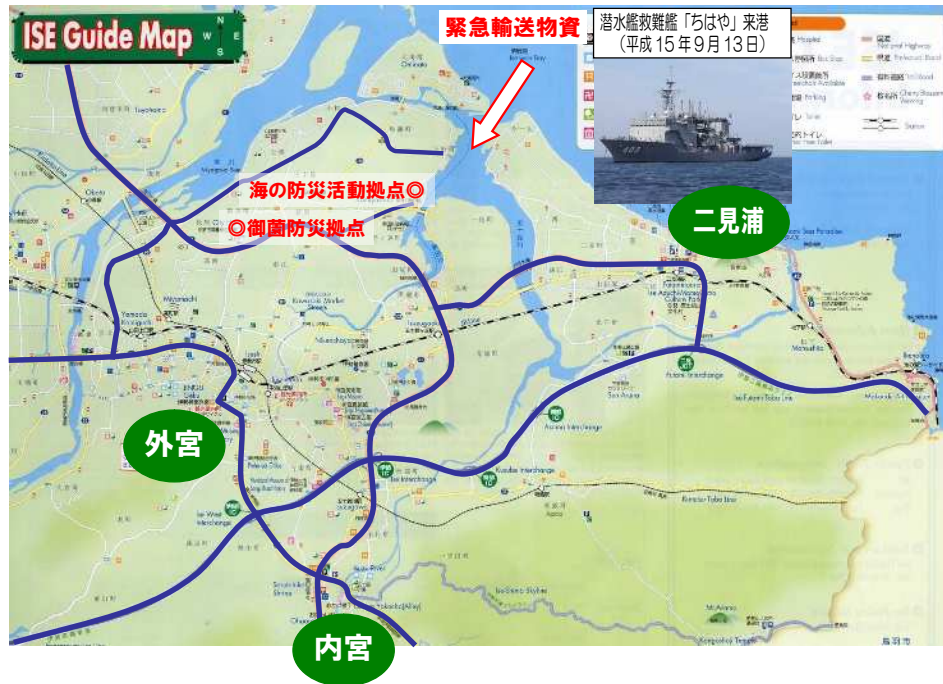


公共棧橋



公共埠頭

方針



## 施策2 護岸の整備

### 1 港湾・海岸の整備

防災機能の強化を図るため、耐震性の優れた護岸の整備を進め、津波や台風などへの防災機能を強化します。



## 施策3 浚渫事業の促進

### 1 浚渫事業の促進

災害時におけるフェリー等による物資・旅客輸送の強化など、浚渫事業の促進による災害支援機能の強化を図ることで、地域振興につなげます。



## 6 交流の推進

### 施策1 交流の推進

#### 1 地域間交流の推進

クルージングネットワークの確立を視野にいれ、伊勢湾、三河湾、遠州灘等の諸都市との交流を推進します。

#### 2 地域振興イベント

祭りや地域振興イベントにより交流を推進します。また、帆かけ和船「どんどこ丸」による、どんどこ祭りを復活させ、さらなる交流の推進を目指します。

#### 方針

・御幣鯛船 歓迎



・港まつり



・どんどこ祭りの復活



・伊勢河崎商人館の歴史学習



・二軒茶屋のまちなみ見学



・大湊の鷺が浜散策



## 施策 2 木造船みずきの一新と乗船体験学習の継続

### 1 木造船みずきの代船建造 ～ 船参宮の復活を目指して ～

木造船みずきは建造後 14 年が経過し、船体、エンジンともに老朽化しているため、木造船みずきの代船を建造します。船参宮で栄えたみなとまちの再興を目指し、歴史的・文化的資源を有効活用し、市民及び観光客が水と親しみ交流できる場を提供することで、新たな雇用創出を図り、若者が住み続ける魅力あるまちづくりをすすめます。



### 3 乗船体験学習の継続

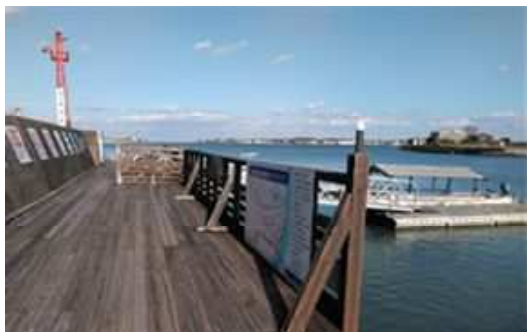
例年、開催している夏休み子ども体験ツアーや趣の異なるツアーなど、木造船みずきの乗船体験学習を継続し、地域住民の交流や観光の振興、住民参加による地域振興の取り組みの継続を図ります。



方針

### 2 ウッドデッキの更新

神社海の駅地先に位置するウッドデッキの老朽化もみられています。今後も木造船みずきの乗船体験学習や御幣鯛行事など、様々なイベントを滞りなく遂行するため、ウッドデッキの更新を行います。



### 4 次世代の担い手確保に向けた取り組み

船員も含め船の管理運営に携わる人材の高齢化が進んでいます。伊勢市や NPO など関係機関が協力し、次世代の担い手確保に取り組みます。





# 7 マリン・生涯学習の充実

## 施策1 マリン・生涯学習の充実

### 1 マリン(海洋)教育の充実

関係者が協力連携し、ヨット・シーカヤック・伝馬船などの体験イベントを開催するなど、マリン(海洋)教育の普及・充実に努めます。

### 2 生涯学習の充実

歴史文化あふれる宇治山田港を題材とした「みなと」に関する講座や見学会の開催など、生涯学習の充実に努めます。

#### ・伝馬船建造学習会

毎日新聞 平成15年10月24日(金)

毎日新聞 平成15年12月1日(月)



#### 方針



#### ・港中学校 カッター教室



#### ・神社みなとまち館見学



#### ・クルージングワークショップ(川の駅『河崎』 ⇄ 海の駅『大湊』)



#### ・見学会(川の駅『二軒茶屋』<まちかど博物館>)



# 8 プレジャーボート対策

## 施策1 水面利用に関するルールづくり

### 1 水面利用のゾーニング

自治会、漁協、遊漁船組合、NPO、行政など関係者による協議（プラットフォーム）を今後も継続し、地域が主体となった水面利用をすすめることで、プレジャーボート対策に貢献します。

放置等禁止区域の指定



## 施策2 施設整備などの受け皿づくり

### 1 係留施設の整備

係留・保管場所の確保を今後も継続することで、さらなる係留施設の整備に努めます。

### 2 係留施設の管理・運営

自治会、漁協、遊漁船組合、NPO、行政など関係者が連携し、適切な役割分担のもと、係留施設の管理・運営を行います。



方針

## V 第3期アクションプログラム(今後概ね10年間)

### 1 プレジャーボート対策の継続

#### 1 プレジャーボート対策

- ・今後も行政に協力し、これまでに作成、運用を進めてきた水面利用に関するルールに則り、利用者への啓発など無秩序な係留船舶の是正に努めます。
  - (1) 行政が設置した「勢田川等水面利用対策協議会」で検討、策定された水面利用に関するルールの継続運用に加え、係留場所などの施設整備による受け皿づくりをさらに推進します。
  - (2) 行政に協力し、水面利用者への啓発や所有者不明船の撤去など、今後も継続して無秩序な係留船舶の是正に努めます。

### 2 みなとの活用

#### 1 集客と交流拠点づくり

- ・関係者と協力連携し、集客と交流拠点づくりをすすめ、歴史と伝統のある宇治山田港のさらなる活用を図ります。
  - (1) 広域交流拠点づくり
    - ・みなとの拠点施設として、海の駅神社の利活用を図ります。
    - ・伊勢市都市マスタープランで掲げる広域交流拠点形成に協力します。
  - (2) クルージングネットワークづくり
    - ・クルージングネットワーク確立に向け、伊勢湾、三河湾等の既存マリーナの協力を仰ぎ、体験イベントを実施します。
    - ・集客と交流をめざし、環伊勢湾・三河湾との地域間交流をすすめます。
  - (3) 川の魅力づくり
    - ・平成21年5月22日に国土交通省から認定を受けた川まちづくりと連携し、川の魅力づくりに努めます。
  - (4) 「みなと」を核としたまちづくり
    - ・みなとオアシスの登録を目指すとともに、新たな担い手確保に向けての支援・育成、地域住民、観光等に資する施設の整備、情報提供をすすめます。

#### 2 防災機能の強化

- (1) 海の防災活動拠点整備
  - ・震災時の緊急物資輸送の活動拠点となるよう整備します。
- (2) 護岸の整備
  - ・護岸の整備を進め、津波や台風などへの防災機能を強化します。
- (3) 浚渫事業の促進
  - ・浚渫事業の促進により災害支援機能の強化を図ります。

### 3 地域が主役となる「みなとまちづくり」の展開

#### 1 『まちの宝物』発掘・活用

- ・今後も、みなとをテーマとする観光交流体験イベントの開催、地域資源の発掘、伝統技術の伝承など、自治会やNPO等地域が主役となりまちづくりをすすめ、豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした「市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり」に取り組みます。

#### 2 交流の推進

- ・祭りや地域振興イベントにより交流を推進します。

#### 3 マリン・生涯学習の充実

- ・マリン（海洋）教育及び生涯学習の普及・充実に努めます。

## VI 構想推進に向けて

### 1 プレジャーボート対策の継続

宇治山田港では、令和2年2月時点で63隻の不法係留船が確認され、約半数にあたる29隻が未だ水面利用に関するルールを満たせない状況にあります。これら放置艇等は一般的に①係留場所の私物化・利権化、公共施設の破損、沈没船化、②無秩序な艇の集積による船舶航行の支障、③洪水・高潮時における流水の阻害、艇の流出による災害の発生、④安全管理の不十分さに起因する事故や遭難、漁業操業者とのトラブル、⑤違法駐車、騒音、ゴミ・油の不法投棄、景観の悪化等の問題を引き起こしていると言われており、宇治山田港も例外ではなく、プレジャーボートによる公共水域等の利用の適正化が求められています。

また、いつ起こってもおかしくないと言われている東海地震、東南海・南海地震に伴い発生する津波来襲時の二次被害の懸念も高まっており、プレジャーボート対策が急がれます。

宇治山田港湾整備促進協議会は、所有者の自己責任の徹底や製造・販売事業者の取組はもちろんのことですが、今後も年次計画を定めた上での継続した規制措置と係留保管能力の向上とを両輪とする地域、行政等関係者の連携によるプレジャーボート対策の推進を引き続き行ってまいります。

### 2 みなとの活用

宇治山田港は歴史文化豊かな港です。五十鈴川、勢田川の河口に位置する河口港で、「大湊」、「神社」、「河崎」の3つの港からなり、古くから全国各地の『お伊勢まいり』客を乗せた船や外来の物資を集散する様々な船が往来していました。

「大湊」は神宮用材の貯木場があり、神宮の御厨、御園からの貢進を受け入れた港でした。木造船業が発達し、豊臣秀吉が朝鮮出兵に使った日本丸を建造するなど古くから造船のまちとして栄えました。「神社」は五十鈴川、勢田川に通じる水運の要地で、外来の物資が集散する幾多の船が往来し、これに伴う海運業や船宿を営むものも多く、三河、知多、遠州方面からの航路が開かれ、参宮客の海の玄関口として栄えました。「河崎」は勢田川の水運を利用し、地域の住民と年間数百万人に達する参宮客（往時の日本の人口の約5分の1が参詣）の台所として繁栄し、物資を供給する問屋街としても賑わいました。

宇治山田港は風光明媚な海岸を持ち、「日の出」で全国的に有名な夫婦岩や明治15年に日本ではじめて海水浴場が誕生し、海水浴場発祥の地として公認された二見浦海水浴場もあります。

かつての船参宮の再現やみなとに関する伝統行事、地域間交流、海の体験交流イベントの開催など、地域のNPOなど関係者が連携し、海洋性レクリエーションの振興に努めるなど、海の駅神社を核とした伝統ある宇治山田港を新たな海の玄関口として再生・活用していくことを提案します。

また、南海トラフを震源とする大規模地震の発生が危惧されている中、宇治山田港の防災機能の強化に向け、防災拠点の整備、護岸整備、浚渫事業の促進の取り組んでまいります。

### 3 地域が主役となる「みなとまちづくり」の展開

「みなと」を核とするまちづくりの取組は、平成15年9月8日に国土交通省港湾局より「みなとまちづくり」に関するケーススタディ港の選定を受け、宇治山田港湾整備促進協議会が事業主体となり、みなとまちづくり談議、伝統行事による地域間交流、伊勢ゆかりの木造船建造『匠の技』伝承、舟運に係る社会実験を行なっていました。また、同年9月12日には、観光振興を核として交流人口を拡大する地域づくりを推進するため、国土交通省の観光交流空間づくりモデル事業の対象地域に伊勢二見地域が選定され、宇治山田港湾整備推進協議会は、事業主体である伊勢二見地域観光交流推進協議会（平成15年6月設置、平成21年3月解散）に協力し、みなとをテーマとする観光交流体験イベントの開催、地域資源の発掘、伝統技術の伝承など、自治会やNPO等地域が主役となりまちづくりをすすめてまいりました。

今後も、地域が主役となり、豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした「市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり」に取り組み、「みなとまちづくり」に欠かせない次世代の担い手確保にも関係機関で協力し、取り組んでまいります。